

理事長あいさつ

第3次中期5か年計画の策定へ

理事長 川野武豊



年々夏の暑さが増し猛暑日の連続した今年は、台風の到来を予知させるかのように、低い植え込みでの「蜂刺され」の被害が多発しました。

幸い適切な事後対応により、大事には至らず日頃の研修効果が出ているものと喜んでいきます。

しかし、残念ながら除草作業の就業時に「飛び石」事故2件（車の後部ガラスおよび校舎の窓ガラス破損）が3年ぶりに発生しました。ベテラン会員の事故だけに、あらためて「過信」・「慣れ」の危険性を喚起し、安全就業の徹底を図りたいと思います。

また、好調に推移してきた業績は、今期4～7月の実績では4年ぶりで一服状態となりました。

受注金額は49,686千円で前年比99.9%、会員数は328人→331人の3人増で、小康状態であります。8月以降での巻き返しを期待しています。

さて、わが国では少子高齢化が進み、労働力人口が減少している中、働く意欲のある高齢者が活躍し続ける「生涯現役社会」の実現に向けて、国を挙げて取り組んでいるところですが、本年6月2日に「ニッポン一億総活躍プラン」が閣議決定されました。

それによると、「子育て支援」・「介護支援」ととも

に「生涯現役」をめざす「高齢者の雇用拡大」が大きな柱となっています。

当センターにおいても、この大きな流れに沿って「就業先の拡大」・「人材の育成」などに注力し、福祉関連事業では精華町行政の協力のもと、地域社会に役立つ活動計画を進めており、地域社会より喜ばれ、必要とされる存在をめざしてがんばっています。

さて本年度は、当センターの「第3次中期5か年計画」（平成29～33年度）の策定に着手したいと考えています。

新計画の一番の課題は第2次計画で唯一達成できなかった会員数400人への再挑戦です。

基本的にはシルバー人材センターの基本理念である「自主・自立・共働・共助」の下、高齢者（会員）に仕事を提供することが主な目的ですが、シルバー人材センターの役割が会員の「健康長寿」や「生きがいづくり」等の手助けをするということを踏まえ、国内外の不安定な経済状況が続いている中で、平成33年度末を見据えて目標設定を計画します。

安定した事業運営に必要な課題整理を優先し、そして時代の要求に適応した目標設定を、過去の反省を織り込みながら、第3次中期5か年計画の策定を進めて事業発展のために努力してまいりますので、会員の皆さまのご支援とご協力をお願いいたします。

当センターは常に「地域社会より必要とされる存在」をめざしています。

理事会等のうごき

平成28年度 第2回理事会

平成28年8月19日（金）午後1時30分～

審議議案 なし

報告案件のみ



表紙写真のひとつ



8月24日は昔から京都などに伝わる地蔵盆、夏の終わりの風物詩です。地域のお地蔵さまに赤い提灯、お花、お餅、果物など精いっぱいのお供えをします。お参りにきた子どもたちにはお菓子などがふるまわれます。子どもたちのすこやかな成長と幸福を願う地域ごとに行われている小さな夏祭りなのです。

最近では生活スタイルの変化で簡略化されてきているようですが、大人になってからも思いつく懐かしい心の風景、ずっと大切にしていきたいものです。（文 母谷章宣）